吉田南中だより

令和６年３月２５日
鹿児島市立吉田南中学校

吉田南中学校ＨＰ

４月の主な行事

４月					
日	曜	行　事　内　容	日	曜	行　事　内　容
８	月	入学式・１年役員ＰＴＡ	22	月	生徒総会
10	水	２／３年生役員ＰＴＡ決め	23	火	１年集金日
12	金	三者相談（～19日）	24	水	２年集金日
16	火	補助教材販売	25	木	３年集金日
18	木	全国学力学習状況調査	26	金	ＰＴＡ総会　学年学級ＰＴＡ

第７７回卒業式

３月１２日（火）に，第７７回卒業式を挙行しました。

卒業生は義務教育最後の授業である卒業式を終え，これまでの中学校生活に達成感や満足感を感じるとともにこれからの生活に夢や意欲をもって巣立ってくれると思います。

卒業生が，義務教育を有終の美で終えることができたのは，保護者の皆様はもちろんのこと地域の皆様の温かい愛情とお力添えのおかげと心から感謝しております。

＜答辞＞

教室の窓から差し込む光に，春を感じる季節となりました。

ご来賓の皆様，先生方，在校生のみなさん，そして保護者のみなさま，本日はこのような卒業式を挙行していただき，ありがとうございます。今日，このよき日に私たち73名は吉田南中学校を卒業します。

三年前，大きめの制服に身を包み，私たちはこの体育館で，入学式を行いました。中学校という新しい世界。右も左も分からない私たちは，先輩や先生方に助けてもらいながら，毎日必死にたくさんのことを全力で吸収していました。

二年生，初めてできた後輩に「先輩」と呼ばれたときのくすぐったさを覚えています。先輩として，そして学校の中堅学年としてどう過ごすべきなのか，考えさせられました。さらに後期からは，部活動や生徒会活動などで学校を引っ張っていく立場になり，人前に立つことの難しさ，自分の未熟さ，先輩方の偉大さを痛感し，とても悩みました。でもその悩んだ経験が，自分を本当の意味での「先輩」に育ててくれたようにも思います。

あっという間に三年生。何においても「義務教育最後の」という枕詞がつき，自分自身のこと，仲間のこと，将来のこと，たくさんのことに向き合い，悩み続けた一年間でした。

三年ぶりに一日開催を実現できた体育大会。全校リレー，綱引き，newチェストからは，全校生徒で一つのことに取り組む楽しさを思い出すことができました。 学年競技の玉入れに，夢中になったことも，大声で応援し，喉をからしたことも，青春の一ページです。

曲選びから難航した合唱コンクール。難しい歌詞と音取りに苦戦し，「こんなの無理だよ」と諦めの声も聞こえていました。けれども朝・昼休み・放課後と，とりあえず毎日練習しているうちに，「ハーモニーが生まれる楽しさ」に気付き，パートごとの練習のはずが，気付いたら全員で合唱していることもありました。歌い終わった後の，感動で震えた体育館ややりきった高揚感は忘れられません。勝ち負けこそありましたが，それを超える感動と達成感がありました。

他にも，悔し涙を流した最後の中体連も，最後の授業も，最後のクラスマッチも，心にぐっとくるものがありました。

そして，自分の人生を左右する高校受検。どれだけやっても不安はぬぐえず，悔しくてやるせなくて，涙を流したこともありました。そんなとき，「あなたならできる」と励ましてくれた人のおかげで乗り越えることができました。自分と向き合うことで明確になった「自分自身」。そして，支えてくれる人の存在の大きさ。人生初の壁は，私たち三年生に多くの成長と気付きを与えてくれました。

在校生の皆さん。私たちは，みなさんに，先輩としての背中を見せることができていたでしょうか。様々な場面で皆さんと関わり，受験前にはあたたかい励ましの言葉をいただきました。私たちが先輩らしくあれたのなら，それは，皆さんのおかげです。明日からの吉田南中学校を，みなさんに託します。よろしくお願いします。

先生方。三年間，個性あふれる私たちに真正面から向き合い，寄り添い，時にはぐっと導いてくださいました。愛とユーモアに溢れた先生方。日々の授業も，叱られた出来事も，共に喜んだり悔しがったりした瞬間も，その時々に真剣にご指導くださったおかげで，未熟だった私たちは，ここまで成長することができました。三年間，ありがとうございました。

保護者の皆様，今日までの１５年間。私たちを支えてくれてありがとう。思春期真っ盛り。たくさん心配もかけました。何度もぶつかり合い，本気のケンカをしたこともあったね。それでも，自分で決めたことを，一番応援してくれたのは，保護者の皆さんでした。皆さんがいなければ出来なかったことがたくさんあります。
これからも，困難にぶつかって進めずにいる時，どうかまた，その温かい手で私たちの背中を押してください。

最後に，共に巣立つ仲間たちへ。歩きなれた通学路，いつもの教室，みんなの笑い声，そんな日常も，今日が最後なんだね。 三年間，いろんなことがありました。それは，楽しいことばかりではなかったかもしれません。でも，それも含めて，みんなと過ごした日々は，かけがえのない宝物です。私は，この学年の一員でいられて，本当によかったです。みんなのことが大好きです。卒業後，それぞれ別の道を歩んでいくけれど，みんなのこと，忘れません。

ご参列のみなさま。今日を境に私たちは，それぞれの道を歩んでいきます。この先たくさんの「正解のない問い」にぶつかるでしょう。しかし，自分の成長を糧に，感謝の気持ちを忘れずに，諦めず，投げ出さず，助け合いながら，自分なりの「正解」を探してみようと思います。道は開けていくのだと信じて。どうか，見守っていてください。

最後に，皆様のご健康とご多幸，吉田南中学校のますますの発展をお祈りし，答辞とさせていただきます。

第七十七回卒業生代表　東　ゆう

へたうま

ある資料を作成するときに，かつての上司から言われたのは，「へたうま」という言葉でした。
「塚元さんの絵は『へたうま』だよね。でもね，それでいいんだよ」と。

「へたうま」という言葉は，使う場面や相手によっては，失礼な言い方になるのかもしれませんが，私は，その言葉を自分に対して喜んで使っています。下手は下手なりに絵を描いているうちに愛着がわいてきます。下手は下手なりに，その下手さ加減がいいと思っています。また，比べる対象ではありませんが，パブロ・ピカソも「子供のように描くには一生かかった」と言っています。

私は，小学校のころは，できるだけ本物のように絵が上手にかけるようになりたいと思っていました。そのため，水彩画で人物の顔を何回か書いているうちに画用紙に穴が空いてしまい，友達から笑われたという，ちょっとつらい経験があります。

右上の絵は，実は「いじめの認知」の資料のために書いた挿絵です。スタイラスペンを使ってタブレット端末上で描いてみました。大きく書いて，小さく縮小すると，それっぽく見えてくると「自画」自賛しています。
公私混同してはいけませんが，絵や資料は，小５の頃に友達数人から，私が，いじめられて悔しかった半年間のことも思い出しながらつくりました。あの頃に，いじめ防止対策推進法があったらと思います。いじめの悔しさは，還暦を迎えても忘れないものです。いじめは，何の役にも立ちません。

吉田南中学校だよりで，私からの最後のメッセージ。
皆さんには，いじめのない世界，ハラスメントのない社会や生活に貢献し続けてほしいと思います。
（参考：「ピカソ　創造のエネルギーをかきたてる『未完成力』」齋藤　孝著　大和書房，平成25年施行「いじめ防止対策推進法」）

校　長　　塚元　宏雄